

第 1 回専門部会における主な意見等について

○…第 1 回部会意見 ●…他部会の委員・専門部会に属さない委員からの意見

目指す姿 1 秋田の将来を支える高い志にあふれる人材の育成

- 生徒が、実際に企業でどのようにデジタル技術が使われているのかを知るには、現場に行くのが一番である。短期間で構わないので、インターンシップを行ってはどうか。(佐藤委員)
- 将来、事務系の業務は、A I に取って代わられる。A I と現場をつなぐ技術者の確保・育成は大きな課題である。再生可能エネルギーに関わる技術者の育成も必須である。ロボティクスや I C T の導入、指導者の確保・育成のための支援体制（O B 技術者や企業アドバイザーの活用）の構築等、高校専門科や専門学校の充実を図る必要がある。(無所属：木村委員)
- 環境活動については、高校生の知識が豊富であるが、やはり教育は重要であると考えられる。(未来創造・地域社会部会：能登委員)

目指す姿 2 確かな学力の育成

- 全国学力・学習状況調査結果を分析すると、秋田県では中間層は厚くなってきているが、上位層が伸びていない。I C T を効果的に活用し、これまでの知識伝達型から、生徒が主体的に考え、解決方法を見出していく授業スタイルに改善していく必要がある。(佐藤委員)
- デジタルデバイスを導入することで、物理的な黒板やホワイトボードに比べ、生徒の主体性・能動性を尊重しやすくなる。(豊田部会長)
- 大人数の生徒が参加する授業の場合、これまでの伝統的な授業では、生徒一人一人の手元を確認することは物理的に不可能であったが、I C T を活用することにより、生徒がデバイスに書き込んでいる様子を確認し、必要に応じて様子を見に行くなど、生徒一人一人に目が行き届く授業が可能となる。(豊田部会長)
- 教員が授業で使用する端末は、授業中の様々な協働作業のハブ的な役割を担うことから、高い性能が求められる。生徒の端末と同性能のものでは不十分であることをしっかりと認識し、小・中学校においては市町村の取組を支援し、県立高校においては県として教員をしっかりと支援する必要がある。(豊田部会長)
- 子どもたちの教育も大事であるが、先生たちの能力や可能性を引き出していくことも大事である。質の高い教育に繋げるため、環境を整えて、先生のやる気を引き出していくことも重要である。(廣田委員)
- 教員が、探究型授業に取り組むに当たって、新しいことにチャレンジするためには、教材開発費が必要ではないか。(廣田委員)
- 企業が開発したソフトを使うことも大事であるが、教員同士の情報交換の中から出

てきたインフォーマルなものの方が、面白くて使いやすい場合もある。教育委員会として様々な先進事例を収集し、発信することが大切である。(佐藤委員)

- 授業でICTを活用することは、先生たちにとってハードルが高いが、校務の情報化は、日々の業務が楽になるというメリットがあり、利用を推進しやすい。校務の情報化が進むと、授業のICT活用も進むと思われるので、ぜひ進めていただきたい。(廣田委員)
- 小規模な学校では、子どもたちの世界はどうしても小さくなってしまう。自分の発表について他校の先生や生徒から指摘をもらうことは、大きな刺激になる。ICTを活用した学校間交流を進めていただきたい。(豊田部会長)
- 今後、教育データの利活用が進むと思うが、地域差が出てくることを懸念している。どういったデータを収集し、どのように活用するのかはまだ決まっていないと思われるが、データ収集には時間が掛かるので、今から積極的にデータを採っていくことが大事である。(廣田委員)
- 教員の指導方法もAIで解析すればパターンが見えてくるかもしれない。若手教員への指導スキルの継承が課題となっているが、ベテラン教員が、具体的に何を問題意識として捉え、どういった知識・技術を使っているのかは、若手教員が模索しないといけない。秋田の教師文化・技術を残すためのデータ分析を行ってはどうか。(佐藤委員)
- 本県でGoogle for Educationを導入したのは、非常に画期的で素晴らしい取組である。国の政策に振り回されることなく、生徒たちの主体的な学びを支えるICT活用を、現場の教員をしっかりとサポートしながら、力強く推進していただきたい。(豊田部会長)

目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成

(特に意見なし)

目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成

- 学校に馴染めず、他の区域の小規模校に通っている子どももいる。今後、統廃合が進み、小規模校が減っていく中で、そのような子どもたちへの対応策の検討をお願いしたい。(野崎委員)
- 親に対し、子どもたちが遊びではなく、勉強の道具としてPCを使っていることを理解してもらう必要がある。親世代のICTに関する意識が高まらないと、子どものICT活用は進まない。(廣田委員)
- 秋田はスマホ普及率も全国で低位にあり、インターネット関連の親世代の取組が遅れている中で、親世代のICTへの意識の低さが、子どもの教育の質の低さにつながりかねないという懸念がある。危機感を持って取り組んでいただきたい。(豊田部会長)
- PTAでもデジタル化を進めているが、依然として紙媒体の利用が多い。今の親世代は、ICTに対する意識が低いと感じる。時代はどんどん進んでいるのに、追いついていない。理解啓発に力を入れる必要がある。(野崎委員)
- 他県から来た者として、秋田県は文武両道を本当に実践しており、感銘を受けた。

大会では敗者復活戦もあり、諦めない心も育てている。学校体育や運動部活動の充実に向けた取組に今後も力を入れていくことは賛成である。(佐藤委員)

- 色々なスポーツに、それぞれ色々な面白さがある。子どもたちのニーズを大切にしながら、好きなスポーツに向かっていく心を育てていくことが大切である。(佐藤委員)
- 多様性への理解を進めるためには、子どもへの教育が重要なのではないか。(未来創造・地域社会部会：原田委員)
- (スポーツについて) 子どもに対して、もっとプロフェッショナルな方が指導する環境を整えることが必要と考える。(観光・交流部会：佐々木委員)

目指す姿5 地域社会の活性化と産業振興に資する高等教育機関の機能の強化

- 国立大学法人である秋田大学に対してどうあってほしいのか、県からメッセージを出していただきたい。各学部長との懇話会を開催するなど、県と大学との距離を縮める取組を行っていただきたい。(佐藤委員)
- 高校生に、大学に対する興味・関心を持ってもらうため、大学の授業を一部でもよいので配信する取組を行ってはどうか。(豊田部会長)
- 将来、事務系の業務は、AIに取って代わられる。AIと現場をつなぐ技術者の確保・育成は大きな課題である。再生可能エネルギーに関わる技術者の育成も必須である。ロボティクスやICTの導入、指導者の確保・育成のための支援体制(OB技術者や企業アドバイザーの活用)の構築等、高校専門科や専門学校の充実を図る必要がある。(無所属：木村委員) ※再掲

目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築

- 最近、国語力の低さにより、数学の問題を解けない子どもたちが多。読書活動を推進する取組は大変重要であり、今後も継続していただきたい。(廣田委員)
- 読書活動の推進に向けたイベントは、ほとんどが秋田市での開催だと思われる。イベントを中継したり、動画をアーカイブで視聴できるようにするなど、一人でも多くの方がイベントに参加し、読書の楽しさを知っていただきたい。(廣田委員)
- 今の子どもたちは、読解力が低く、本を読んでも頭の中で映像化できず、文字の羅列にしか捉えられなく、その結果、本から離れてしまうことがある。読書活動の推進は、ぜひ取り組んでいただきたい。(野崎委員)
- 働き方の変化やデジタル化等について行けない高齢者等にも効果的な施策を講じるべきである。(未来創造・地域社会部会：能登委員)
- 伝統文化は「秋田ならではの」ものが多い。文化財保護を進める上で、指定文化財にとどまらず、広く伝統文化を守るという視点は、秋田の魅力を保つという意味でも、一層大事になるのではないか。(無所属：石井委員)